実用化事例　技術相談

支援先

株式会社 岩田織物

結城紬かしあげ織り技術を用いた洗顔用ミトンの開発と消費者調査

【開発の背景】

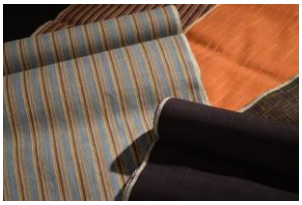

図１　結城紬

茨城県結城市を中心として生産されている結城紬（図１）は，代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物の和服地で，国の伝統的工芸品に指定されているほか，その生産技術は国の重要無形文化財にも指定されています。

工程は全て手作業によるもので，真綿から手で糸をつむぎ，模様をつける場合は細かな印付けや防染を行い，地機と呼ばれる古来の織機にて織ります。

生産に要する期間は複雑な柄のものになると，糸つむぎから完成まで１年を超え，その技術は世界でも守るべきものと認められ，2010 年 11 月にユネスコ無形文化遺産に登録されています。

しかしながら生産量は 1980 年代の三万反をピークに減少しており，このようなことから産地として新たな活路の模索がなされ，支援先の株式会社岩田織物でも結城紬技術を活かした新たな製品開発を模索していました。

一方，平成 23,24 年度に工業技術センターでは，県内の工芸やクラフト関連の企業とともに，消費者を想定した異業種コラボ品開発および試験販売による売れ行き調査の活動（地場産販路開拓研究会）を行いました。この活動に参加した岩田織物では，手作り石けん企業とのコラボによる製品に取り組み，結城紬の手紬糸の希少性や素材感，ユーザー層に着目した製品として「洗顔ミトン」を試作し，併せて，試作品の改良検討のために，洗顔ミトンの使用感の消費者調査も行いました。

【開発の経緯・支援内容】

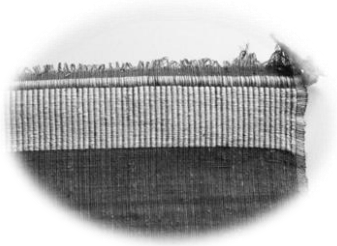

図２　かしあげ部分

結城紬を用いた小物は，そのほとんどが反物生地を用いていますが，今回の洗顔ミトンは「かしあげ」と呼ばれる部分（図２）の織り方に着目しました。

かしあげとは，反物の顔となる織り始めの部分で，数本束ねた糸を浮かせて織られます。このため，反物生地の平織りよりも肌への当たりがソフトになります。

この開発にあたり工業技術センターでは，1.洗顔ミトンのデザインを企業とともに検討，2.モニタ調査のためのホームページ立ち上げの方法，3.モニタ募集の方法や集計の方法，について支援いたしました。

【開発した製品の紹介】

図３　洗顔ミトン

モニタ調査では試供品を提供し，肌触りや刺激，サイズなどについて企業ホームページから回答いただき，その結果，おおむね良好な回答が多く，また，いくつかの課題や姉妹品展開へのヒントも得られました。

企業ではその結果を次の開発に活かす考えで取り組んでいます。

洗顔ミトン　3,800 円（図３）

企業ホームページにて販売中

http://www.iwataorimono-teori.com/

基礎となった事業	平成 24 年度　オンリーワン技術開発支援事業（研究会）			
現在の担当部門	紬技術部門	部　門　長	篠塚　雅子	TEL:0296-33-4154
	産業連携室	主任研究員	石川　章弘	TEL:029-293-7212